

整理番号：ousakakouhai-1

制定日：1994年12月01日

改定日：2016年06月01日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 生石灰
会社名 全国農業協同組合連合会
担当部署 肥料農薬部
住所 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F
電話番号 03-6271-8285
Fax 番号 03-5218-2536
電子メールアドレス zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡電話番号 03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

2. 危険性の要約

GHS分類

急性毒性（経口）：区分5
皮膚腐食性／刺激性：区分1C
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分1

標的臓器／全身毒性（単回暴露）	: 区分 1（呼吸器系）
	: 区分 2（全身毒性、消化器）
標的臓器／全身毒性（反復暴露）	: 区分 1（呼吸器系）
吸引性呼吸器有害性	: 区分 1

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ（経口）

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

臓器（呼吸器系）の障害

臓器（全身毒性、消化器）の障害のおそれ

長期又は反復暴露による臓器（呼吸器系）の障害

飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【安全対策】

保護手袋／衣類および保護眼鏡／保護面を着用すること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

【応急処置】

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外して洗うこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。

皮膚（または毛）に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。

衣類にかかった場合：

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。

ばく露又はその懸念がある場合：

医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別	：単一製品
化学名	：酸化カルシウム(Calcium Oxide)
化学式または構造式	：CaO
含有量	：93.0%以上
官報公示整理番号	：1-189
CAS No.	：1305-78-8

4. 応急処置

【吸入した場合】

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

【皮膚に付着した場合】

直ちに、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。汚染された衣類をすべて脱ぐこと、

又は取り去ること。直ちに医師に連絡すること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

【目に入った場合】

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

【飲み込んだ場合】

速やかに口をすすぎ、直ちに医師の手当、診断を受けること。

5. 火災時の措置

【消火剤】

小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤

大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤：棒状注水

【特有の消火方法】

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

少量の場合は、乾燥砂等で被覆し、窒息消火する。容器内に水を入れてはいけない。

【消火を行う者の保護】

消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め、適切な化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

【人体に対する注意事項】

作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ミストの吸入を避ける。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

【環境に対する注意事項】

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

【回収、中和】

シート等で覆い、飛散拡大防止を図り、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

- 技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。粉じんが発生しないように注意して取扱う。接触、吸入又は飲み込まないこと。眼、皮膚に付けないこと。眼に入れないこと。粉じん、ミストを吸入しない。取扱い後はよく手を洗うこと。
- 接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照。吸い込んだり、目・皮膚に触れたりしないよう保護具（防塵メガネ、防塵マスク、ゴム手袋）を着用する。

【保管】

- 技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
- 混触危険物質 : 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 保管条件 : 容器を密閉し、涼しい乾燥した場所に保管すること。熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。混触危険物質から離して保管する。施錠して保管すること。
- 容器包装材料 : 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）
日本産衛学会（2005年版） : 設定されていない
ACGIH（2005年版） : TLV-TWA 2mg/m³
- 設備対策 : 気中濃度を推奨された管理濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設

置すること。

保護具

呼吸器の保護具：適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具：保護手袋を着用すること。ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材ではない。ネオプレンが推奨される。

眼の保護具：眼の保護具を着用すること。(安全ゴーグル、顔面シールド等)

皮膚及び身体の保護具：顔面用の保護具、保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

衛生対策：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状、色など	：白色～灰色結晶性粉末 ^{1) 2)}		
臭い	：無臭		
pH	：1 2. 4 (飽和水溶液)		
融点・凝固点	： 2570℃ ⁴⁾	2614℃ ⁶⁾	2572 ℃ ¹⁾
沸点	： 2850℃ ^{4) 6)}		
引火点	：不燃性		
爆発範囲	：データなし		
比重 (密度)	： 3.3-3.4 ⁴⁾	3.37 ⁶⁾	3.32-3.35 ¹⁾
溶解度	：水と反応する ⁴⁾ 1g/840mL 水 ⁸⁾		
自然発火温度	：不燃性		

10. 安定性及び反応性

【安定性】

空気中の水、炭酸ガスを吸収して水酸化カルシウムと炭酸カルシウムを生成する。大量堆積の場合は、湿気により 300℃位に上昇する。

【危険有害反応性可能性】

水と反応して、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生する。

酸、ハロゲン、金属と激しく反応する。硫酸、五フッ化水素と接すると発火する。
塩酸と接すると発熱する。

【避けるべき条件】

水、酸類、可燃物、金属類との接触

【混触危険物質】

酸類、ハロゲン類、金属類

【危険有害性のある分解生成物】

なし

11. 有害性情報

【急性毒性】

経口 マウス LD50 3059mg/kg³⁾

【皮膚腐食性・刺激性】

皮膚に対して腐食性⁴⁾ 湿った皮膚に対して強い刺激性¹⁰⁾ 国連分類クラス 8、III

【眼に対する重篤な損傷・眼刺激性】

データなし

【呼吸器感作性又は皮膚感作性】

呼吸器感作性 : データなし

皮膚感作性 : ヒトの試験で陰性⁷⁾

生殖細胞変異原性 : 酵母菌による有糸分裂組み換え試験で陰性、エームズ試験で陰性⁷⁾ in vivo のデータはない

発がん性 : データなし

生殖毒性 : ラットとマウスの1世代試験で影響なし⁷⁾

【特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)】

粉じん吸入は気道の炎症、¹⁰⁾肺炎⁸⁾を起こす。誤飲すると脈が速く、弱くなり、呼吸が速く、浅くなり、体温が下がり、声門腫により呼吸をしにくくなりショック状態になる。食道、胃の穿孔も生じる。⁸⁾

【特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)】

鼻中隔の潰瘍、穿孔の報告がある。^{4) 10)}

【吸引性呼吸器有害性】

ヒトで吸引性肺炎が報告されている。⁸⁾

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性：魚類（コイ）の96時間 LC_{50} =1070mg/l⁷⁾から、区分外とした。

水生環境慢性有害性：難水溶性でなく（水溶解度=1200mg/l⁸⁾）、急性毒性が低いことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

水溶液は強アルカリ性を示すため、中和等の処理が必要である
産業廃棄物処理法に従って処分する

14. 輸送上の注意

【国際規制】

海上規制情報 : 非危険物
航空規制情報 : ICAO/IATA の規定に従う
UN No. : 1910
Proper Shipping Name : Calcium oxide
Class : 8
Sub Risk :
Packing Group : III

【国内規制】

陸上規制情報 : 特段の規制はない
海上規制情報 : 非危険物
航空規制情報 : 航空法の規定に従う
国連番号 : 1910
品名 : 酸化カルシウム
クラス : 8
副次危険 :
容器等級 : III

【特別の安全対策】

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法：名称等を通知すべき有害物
(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9)
(政令番号 第 190 号)
- 消防法：貯蔵等の届出を要する物質 (法第 9 条の 3・危険物例題 1 条の 10)
- 航空法：腐食性物質
(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)

16. その他の情報・引用文献

参考文献

- 1) Merck (13th, 2001)
- 2) Sax (11th, 2004)
- 3) RTECS (2004)
- 4) ICSC (1997)
- 5) Weiss (2nd, 1985)
- 6) NFPA (13th, 2002)
- 7) IUCLID (2000)
- 8) HSDB (2005)
- 9) ホンメル (1991)
- 10) ACGIH (2001)
- 11) 化学物質の危険・有害性便覧 中央災害防止協会 (1992)
- 12) 発がん性物質の分類とその基準第 6 版 日本化学物質安全・情報センター (2004)
- 14) GHS 分類結果 (日化協 G)
- 15) 日化協「緊急時応急措置指針、容器イエローカード (ラベル方式)」
- 16) 日化協「化学物質法規制検索システム」(CD-ROM) (2005)
- 17) 日本ケミカルデータベース (株)「化学品総合データベース」(2005)

- 18) 安全性 DB (改訂増補版, 1997)
- 19) JETOC「化審法の既存化学物質安全性点検データ集」
- 20) 環境省「化学物質の生態影響試験事業」

記載内容のうち、含有量・物理的／化学的性質等の数値は保証値ではありません。
危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データなどに基づいて作成しておりますが、全ての資料を網羅した訳ではありませんので取扱いには十分注意してください。

本 SDS は、下記マルアイ石灰工業株式会社の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名 マルアイ石灰工業株式会社
住所 〒503-2213 岐阜県大垣市赤坂町 3351
担当部門 開発品質グループ
〈TEL〉0584-71-0804 〈FAX〉0584-71-2426
緊急連絡先 営業部営業グループ
〈TEL〉0584-71-0800 〈FAX〉0584-71-0803